



小島友実の あの馬の STORY



マキシマムドパリ。顔にもまだ幼さが残ります

薫風香る日々。ウツラシウシーグラフの季節は一年の中で競馬が一番盛り上がりマークですね。

今日はそのウツラシウシーグラフの馬を紹介します。

挑む予定の2頭をご紹介します。

まずは、牝馬のマキシマムドパリです。

「この馬を初めて見たのは1歳の春です。可愛らしい馬ですね。乗りかかっても馬体で歩く姿も良かったです。」

管理する松元茂樹調教師はマキシマムドパリを初めて見た時の印象をい

つ振り返ってくれました。

都芝1800メートル戦でデビューしました。

「調教の動きが良かつたので期待していましたが、スタートが一息でね。でも直線で伸びて着ですから、力があるな」と印象でしたよ。」

そして2戦目。12月の阪神戦で早くも初勝利の瞬間が訪れたのでした。

「5番手位で折り合い、力強く伸びて快勝。2戦目で勝ち上がられたのはやはり能力があるからですね。」

年が明け、3戦目は中山に遠征して芝のマイル戦に出走しました。

「この時、戸崎騎手も距離が短いでですね」と話していくと、「1600メートルのペースが向かなかつたですね。実は2戦目の2000メートル戦に武豊騎手が乗つてくれた際、全くかかる所がない。河野社長には、『オーワンス向きました』といお話をさせて頂いたのです」

「の後4戦目、5戦目も1800メートル

戦に出走（結果は5着を賞味の着、君子蘭賞で2着）。特に君子蘭賞は惜しい競馬でした。

「直線は内から伸びたんだけれど、あと一歩でした」

4月の田。マキシマムドパリは会つて厩舎を訪ねました。おおは今年の皆さんの中にやや重くなっている方がごんど思つ馬体重について回つてみました。

「初戦で470kgあつた体が5戦目は450kgほど減つてしまわなり。でも飼葉は食べてるのでお腹が巻き上がりついでいる感じもあります。君子蘭賞後も良い状態をキープしてますよ。」

馬房へ行ってみると、静かに佇むマキシマムドパリがいました。

「普段はご覧の通り、大人しいんでよく」と吉田貴昭持ち乗り調教師。「トレセンでは運動してくる時に少しつねづねなる事がありますが、レースで競馬場に行つてもテンションが高くなり扱いやすい馬です。飼葉ですか? 食べますけど、最近は燕麦しか食べなくて、他の物を入れると口にしてくれないです(苦笑)。だから普段とは違う場所に飼葉桶を吊るしたりして興味を持つてもらひます」と試みています。

じ向かう予定のマキシマムドパリ。今後じつじて松元調教師に向いました。

「この馬の良さはレースでもぐに折り合いかつて所ですね。だから初の東京コースも心配してません。距離はまだ伸びても大丈夫。あとね、体を触つても

全体的に緩いんですよ。成長途上で、まだまだ良くなる余地がある。だから、オーワンストライアルで権利が取れなかつたり、しっかり休んで立て直しが秋に備えたいですね」

最後にはこんな頼もしいお話を聞いてくれました。

「まだ馬体が子供なように本来は晩稻のタイプかもしれません。それで、デブワーラ戦へ出る着内に来て、この



4月8日、厩舎にて撮影



俺、ジュビヨウ。小ワルです(と言っている風)



4月8日、厩舎にて撮影

は、能力があるか?」などと思つてゐる。だから今後がどうにも楽しみですよ。成長を引き出しあげられるように上手く調整してもらいたいですね」

トライアルの結果はまだなんですが、秋以降の活躍も楽しみな「キシマグン」。その芦色の馬体が緑のターフで輝く事を期待したいですね。

そしてもう一頭、ご紹介するのがダービートライアルへ向かう予定のジュビヨウです。実は私はこの馬を管理する高野調教師に、「1歳馬募集の前にインタビューしてみて、師匠の時、この馬の印象をうう話していたのです。

「馬体は小柄もバランスの良さは父のステイゴールド譲り。歩いた感じも素軽く、良い馬ですよ」

今回、厩舎に向ひて高野師匠のコメントを告げると、「ねらいの1歳成長した今もバランスの良さは変わっていないですね」と話してくれました。

「ハムカラは昨年6月に入厩。7月の中京戦でデビューしました。「小柄な馬でスマミナ値がどの程度あるかわからなかつたし、メンバー的に勝てるチャンスが多そうなので400㍍に出て走しましたが8着。結果を見ると、もう少し長めの距離の方が良かつたのかもしれませんね」

そして、距離が伸びた2戦目の小倉戦で見事な変わり身を見せます。

「後方からのレースで出入りの激しい

競馬にならましだが、小牧騎手がベテランにして手綱捌きで乗ってくれましたね。初戦の後で小牧騎手は、「この馬は走りますよ」と言つて、白信を持っています。勝ち時計も未だくわづいたばかりです。勝ち時計も未勝利戦にしたら恥ずかしくないタイマー。直線で伸びていながらも良かつたですね」

500万クラスに上がった後は勝てないレースが続いたものの、昇級4戦目、2月のあすなろ賞で待望の2勝目をマークしました。

「バルジュー騎手には、『前半にエキ

ルギーを使わずに、後半にそれを活かすような競馬を』とワクワクしましました。その通りに乗つてくれて勝てた良いレースでしたね」

7戦目は、皐月賞への最終東上便と

言われる毎日杯へ出走しました。

「11着でしたが、内容は悪くなかったと思います。3〜4コーナーでの手応えが良すぎて、バルジュー騎手が少し早目に動く展開。勝ちに行く競馬をしてくれましたからね。現状では力は出せたと思っています」

担当の加藤圭持ち乗り調教助手に話を伺つて、「乗つた感触が柔らかく、バネがある。素質は高いであります」と教えてくれました。ただ、ステイゴールド産駒。普段の性格はやはり…?

「やんちゃです(笑)。調教に行つてしまふ馬房でも、ハムカラが高い。だからレースに出張する時は、シングルチーンが欠か

せないんです」

こんな話を馬房の前で話していくと、突然、「バン!」という物音が。そう。ジュビヨウが何やら音を立てたのです!驚いて馬房を見たが、今度は何事もなかつたようだ。ユビヨウ君が近づいてくるではありませんか。

「これなんですか。この馬は何か悪さをしても、その後シコツとなつて、ノメンネみたいな感じです。寄つてくるんであります(笑)。甘え上手ですよ」

「シントレ? それとも計算高いの?(笑)。ちなみに頭も良いとの事で、物覚えが早いそうです。

毎日杯後の状態、そして今後の事などについて高野調教師に聞きました。「前走後も飼葉を食べて、元気一杯ですよ。体は小さいですが、根性が良いですね。体の頑強さと気持ちの頑強さ。両方を持ち合わせています。レースで負けても何かを学んで帰つて、また頑張る。だから頼もしいですよ。気的には小ワルで、今の所は、リトルステイゴールド。でもむじ、古馬になつたらもうじょく、でも、古馬になつたらもうじょく、といふところですね」

担当の加藤圭持ち乗り調教助手に話を伺つて、「乗つた感触が柔らかく、バネがある。素質は高いであります」と教えてくれました。ただ、ステイゴールド産駒。普段の性格はやはり…?

「やんちゃです(笑)。調教に行つてしまふ馬房でも、ハムカラが高い。だからレースに出張する時は、シングルチーンが欠か

していませんね」

マキシマグン。パリ、ジュビヨウ。2頭共、頑張つて! 応援していきます。